

令和 5 年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

児童が自分の考えや気持ちを意欲的に伝え合う言語活動の充実を図る

1. 現状

改善が進んだ点

① 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握

	R4目標値	R4達成値	R3達成値
設定	100%	100%	(73.6%)
公表	100%	100%	(54.7%)
把握	100%	99%	(65.2%)

② パフォーマンステストの状況

R4目標値	100%
R4達成値	100%

未だ改善が必要な点

① 授業における、児童の英語による言語活動時間の割合

R4目標値	100%
R4達成値	94%
(R3)	95.9%

2. 分析

① 設定、公表に関しては、県教育委員会、市町教育委員会等の指導や支援により、100%になった。把握に関しても昨年度より数値は上がっているが、指導と評価に当たり、CAN-DOリストを明確に意識できるようにする必要がある。

② 目標値は達成しているが、テストの内容がねらいに沿ったものであるか検証が必要である。CAN-DOリストが活用されているかの確認も必要である。

① 数値が下がっている要因として、「言語活動を通した指導」についての理解は進んではいるが、付けた力を付けるための活動に関する技量が不足しており、教師の発話量が多くなっていることが考えられる。

3. 施策・事業

①②① 英語教育指導アドバイザー（大学教授等）の派遣

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に向けて、大学教授等が、指導内容や指導方法について指導、助言を行い、考えや気持ちを、意欲的に伝え合う対話的な活動を重視した授業実践が行われるようにする。

- ・授業参観においては、該当校の教員だけでなく、近隣の小学校の教員が参観することもある。整理会では、学校全体、学年会＋管理職、学年会＋近隣の小学校の先生方など様々な形態で行われている。

- ・学校によっては、前期 1 回、後期 1 回と 2 回授業を参観してもらうことにより、1 回目の課題に基づいて授業改善できているかを確認している。

- ・授業参観、整理会においては、県教育委員会、市町教育委員会、市町の教育センターの指導主事等と一緒に参加することもある。整理会では、授業に関するだけでなく、日々の業務における悩みや課題等も共有できる場となっている。

① 指導事例の紹介

- ・教員専用サイトに掲載

① 教員総合研修センターの研修

- ・指定研修、希望研修
- ・教科指導リーダーに対する研修
- ・外部の専門機関による研修

令和 5 年度 石川県 英語教育改善プラン

目標 CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を 6 割以上を目指す

(県教育振興基本計画目標値：令和 7 年度までに 6 割以上)

目標

1. 現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握

	R4目標値	R4達成値	R3達成値
設定	100%	100%	(94%)
公表	100%	100%	(79.8%)
把握	100%	95.2%	(85.7%)

②スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合

	R4
R4 : 99%	
スピーキングテスト回数	
R4目標値	5 回
R4達成値	5.4回
ライティングテスト回数	
R4目標値	6 回
R4達成値	4.5回

①授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合

	R4目標値	R4達成値
R4目標値	100%	
R4達成値		84.9%

②英語担当教員の授業における英語使用状況

	R4目標値	R4達成値
R4目標値	100%	
R4達成値		88.1%

③CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

	R4目標値	R4達成値
R4目標値	60%	
R4達成値		52.3%

2. 分析

①設定、公表に関しては、県教育委員会、市町教育委員会等の指導や支援により、100%になった。把握に関しても昨年度より数値は上がっているが、指導と評価に当たり、CAN-DOリストを明確に意識できるようにする必要がある。

②スピーキングテストとライティングテストの実施割合は高い数値である。回数も昨年度よりも微増している。パフォーマンステストが定着してきていることがうかがえる。だが、テストの内容がねらいに沿ったものであるか検証が必要である。

①「言語活動を通じた指導」についての教師の理解は進んでいるが、教師の発話量が多くなっている現状がある。また、地域によっては英語教員が少なく、モデルとなる良い授業を参観する機会が少ない。

②学校訪問等での助言により、多くの教員が英語で行うことを意識して授業をしているが、授業者、地域によって差がある。

③県の目標値の達成に向けて、CAN-DOリストを活用し、さらなる指導改善に取り組む必要がある。

3. 施策・事業

①②①②③

英語教育指導アドバイザー（大学教授等）の派遣

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に向けて、大学教授等が、指導内容や指導方法について指導、助言を行い、考えや気持ちを、意欲的に伝え合う対話的な活動を重視した授業実践が行われるようにする。

- ・授業参観においては、英語教員だけでなく、校区の小学校の教員が参観することもある。

- ・学校によっては、前期 1 回、後期 1 回と 2 回授業を参観してもらうことにより、1 回目の課題に基づいて授業改善できているかを確認している。

- ・授業整理会においては、県教育委員会、市町教育委員会の指導主事等と一緒に参加することもあり、授業に関するだけでなく、日々の業務における悩みや課題等も共有できる場となっている。

②①②③

- ・領域を統合した言語活動に関する指導事例やパフォーマンステスト例を教員専用サイトに掲載
- ・教員総合研修センターの研修

- 指定研修、希望研修
- 教科指導リーダーに対する研修
- 外部の専門機関による研修

令和5年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

- 言語活動の充実
- ①授業の50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている学校の割合=100%
 - ②求められる英語力（CEFR A2以上）を有する生徒の割合=60%以上

1. 現状

改善が進んだ点

①「CAN-D Oリスト」形式による学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握

	R4目標値	R4達成値
設定：	100%	100%
公表：	100%	100%
把握：	100%	100%

②求められる英語力（CEFR A2以上）を有する生徒の割合

	R4目標値	R4達成値
	60%	57.7%

未だ改善が必要な点

①授業の50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている学校の割合

	R4目標値	R4達成値
	100%	47.8%

②より高い英語力（CEFR B1以上）を有する生徒の割合

	R4達成値	R4より調査
	15.2%	

2. 分析

①県独自の英語教育充実事業の一環として、指導改善プランを策定し、全校に配付している。その中で、CAN-D Oリストの設定のポイントを具体的に示した。また、各校1名悉皆の研修会を開催し、大学教授を招いて、評価について専門的な視点から教員が学ぶ機会を設けたことで、学習到達目標への教員の意識が高まり、設定、公表が徹底され、達成状況の把握も行われるようになった。

②言語活動の充実が英語力向上のための重点取組事項と考え、県事業の推進校における実践研究で明らかとなった言語活動の課題点とその解決策を、指導改善プランの中でチェック項目形式で提示し、指導改善を促した。

①各学校で行っている言語活動について、1つの活動にかかる時間が十分でなく、生徒の深い学びにつながっていない傾向がある。

②教師によるモデルの提示やフィードバック等、言語活動の質的向上に結びつく取組が十分でないのと同時に、国際的な水準（CEFR）で生徒の英語力を把握して指導に活かす意識が教員に十分に浸透していない。

3. 施策・事業

①②①②

英語教育充実事業

・指導力向上セミナー

最先端の専門家を招いた研修を実施することで、教員が指導方法や評価に関する知識や最新の情報を得て指導力向上につなげる。

・指導改善プラン

推進校での公開研究授業やその分析会議での大学教授からの指導助言から、言語活動における課題点を分析し、指導改善プランの中で具体的な解決方法を示し共有する。

・指導改善プランチェックリスト

言語活動における課題点を、指導方法と評価の改善のためのチェック項目の形で指導改善プランの中で示し、教員ひとりひとりが授業で行う言語活動やパフォーマンステストについて、1年を通して振り返ることができるようにする。

・効果的な指導法や評価の共有

教員ひとりひとりが行った取組の中でうまくいった言語活動やパフォーマンステストを報告してもらい、それを共有することで、教員が言語活動のアイデアを得たり、評価に関する知識を高める機会を作る。

・英語力調査

県独自で生徒の英語力調査を実施し、到達状況をCEFRを用いて認識してもらうことで指導改善に活かす。